

5. 被害想定に基づく課題抽出

4章で推定した被害および復旧経緯をもとに、震後の代表的な活動の展開を机上シミュレーションし、発生しうる課題を抽出した。着目した活動は次の6点である。

- (1) 被災地（仙台市域）へのアクセスルート
- (2) 被災地への自衛隊の派遣ルート（周辺県から被災地へのアクセスルート）
- (3) 東北地方南北軸（国道4号）への影響
- (4) 三陸南部海岸ルート（国道45号）への影響
- (5) 仙台バイパス区間（国道4号線）への影響
- (6) 医療施設（災害拠点病院：気仙沼医療圏）への影響

以下に、6つの活動のシミュレーション結果及び発生しうる課題等について示す。

(1) 被災地（仙台市域）へのアクセスルート

被害想定結果について特に被災地周辺から被災地へのアクセスルートを示したものが図5-1である。

仙台市域へは、国道4号および国道45号の被災により、北側（岩手県側）からのアクセスは困難な状況が分かる。このため北側からアクセスする場合には、国道4号から国道13号・48号を経由するルートを迂回することが想定される。

南部（福島県側）からのアクセスについては、国道4号および国道6号を利用することとなる。北側と比べると被害程度は低く、1～2日で応急復旧も完了する。このため、被災地南部側への物資搬入ルートとして期待できる。

仙台空港と仙台市内を結ぶ区間では、仙台バイパス上の名取大橋で比較的長期の通行止めが想定されている。しかし、仙台東部道路や仙台南部道路など比較的新しい路線によりリダンダンシが確保されている。また、仙台港から仙台市内を結ぶ45号上では、大きな被害は想定されていない。このことから、応急復旧に1～2日を要する可能性はあるものの、比較的早期に空路・海路による被災地へのアクセスは確保できると考えられる。なお、空港・港湾施設等の被害想定は今回は実施していない。

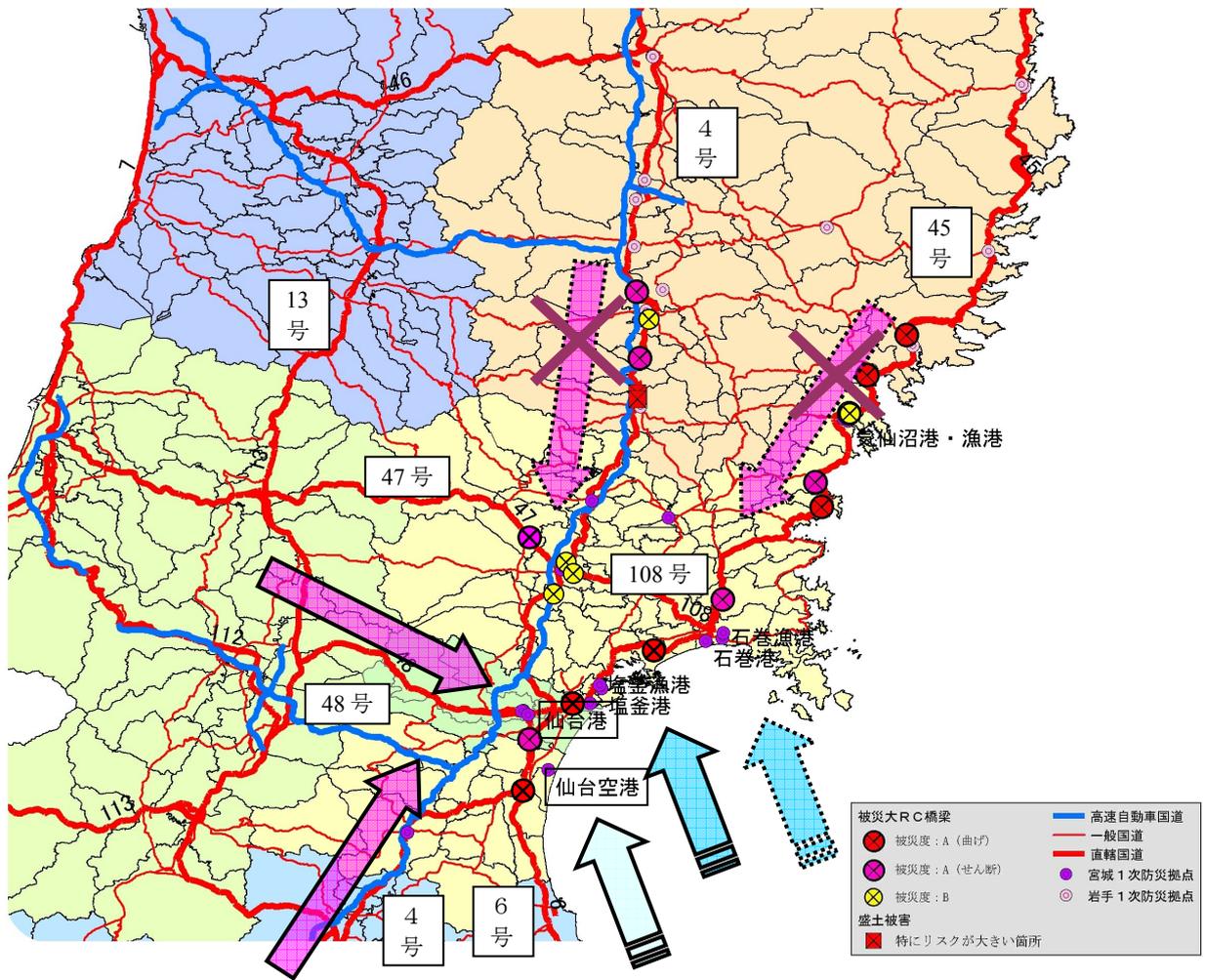


図 5-1 想定宮城県沖地震 被災地へのアクセスルート